

1 単元名 走・跳の運動「高跳び」

2 目標

- (1) 高跳びの行い方を知るとともに、短い助走から踏み切って高く跳ぶことができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 高跳びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①高跳びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ②短い助走から強く踏み切って高く跳ぶことができる。 ③膝を柔らかく曲げて、足から着地することができる。	①自己の課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。 ②競争の規則を選んでいる。 ③友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。	①高跳びに進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ③用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④勝敗を受け入れようとしている。 ⑤友達の考えを認めようとしている。 ⑥場や用具の安全を確かめている。

4 運動の特性

ア 一般的特性

- ・自己の能力に適した課題や記録に挑戦したり、競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

イ 児童から見た特性

- ・高く跳ぶ動き自体の面白さや心地よさを味わうことができ、課題や記録に挑戦する楽しさや喜びを感じることができる運動である。
- ・個人での運動となるため、友達と協力して達成する喜びを感じさせるには、工夫が必要な運動である。

5 児童の実態

知識及び技能に関して	思考力、判断力、表現力等に関して	学びに向かう力、人間性に関して
(行い方の知識はあるか) 3年生のときに「幅跳び」を学習しているが、「高跳び」は初めての学習であり、「高跳び」がどのような運動なのかを知らない児童が多数いた。(技能の状況はどうか) 「3年生で学習した幅跳びは得意でしたか」という質問に対して、肯定的に回答した児童は8割であった。2割(5名)の児童は否定的な回答をしている。	(課題を見付けられるか) 「体育の学習では、自分に合っためあてを具体的に見つけることができずか」という質問に対しては、「よくできる」(10名)、できる(11名)、あまりできない(5名)である。 (解決はできるのか) 「跳ぶ学習で、記録をのばすために大切だと思うことは何か」という質問に対しては、「何回も繰り返し練習する」を選んだ児童が一番多く約8割であった。「自分がとんでいるところを動画で見て、手本と比べる」を選んだ児童は2割、「自分に合った練習の場を選ぶ」は3割で、動きを身に付けるための活動を工夫する力は十分とは言えない。 (考えを伝えられているか) 「友達にポイントやできばえを伝えることができますか」という質問に肯定的に答えた児童は8割近くいた。	(進んで取り組んでいるか) 「走ったり跳んだりする運動は楽しいですか」という質問に対しては、「楽しい」(20名)、まあまあ楽しい(5名)、あまり楽しくない(1名)であり、大多数の児童が進んで取り組んでいると言える。 (友達と仲良く取り組んでいるか) 自分から友達と進んで関わりをもって取り組む児童は多いが、友達から話かけられることを待っている児童もいる。友達の意見を受け入れることが苦手な児童もいる。 (安全に気を付けているか) 5月に行ったかけっこ・リレーや10月に行ったマット運動では、大半の児童が安全を確かめて運動に取り組んでいた。

6 指導の手だて

(1) 課題を見付けられるようにするための指導の工夫

① 課題解決のための練習の場や用具の設定

課題に応じて、練習の場を選べるように、ケンステップやポートボール台などの用具を自由に使えるように準備する。そうすることで、課題解決のための活動を選び、すすんで取り組むことができると考えた。

(2) すすんで課題を解決できるようにするための工夫

① ICT 機器の活用

跳ぶ様子をタブレットで動画撮影し、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付けられるようにする。動きのポイントは、学習を通して子供自身が見付けたり、手本動画と比べて気付いたりできるようにする。ポイントを各自がチェックをすることで、自分の達成度を確認、課題を見付けやすくする。

② グループ対抗の競争

グループ対抗の競争を行うことで、互いの課題を見付け合い、協力して練習方法を工夫し、グループ全体ですすんで課題解決できるようにした。また、グループで競い合うことで、自己の課題を少しでも解決し、記録を伸ばそうとする意欲にもつながるようにする。

7 指導と評価の計画

学習過程		課題を見付ける		課題を見付ける・課題を解決する			
時間		1	2	3・4・5（本時）			6
学習内容及び活動		1 単元の学習の見通しをもつ ・単元の目標と学習の進め方を知る。 ・チームを確認する。 ・学習のきまりを知る。 2 準備運動、主運動につながる運動をする 3 安全な準備の仕方、用具の扱い方について知る 4 グループごとに3から5歩助走での高跳びを行う ・膝を柔らかく曲げて、足から着地することができるようにする。 5 本時を振り返る	1 準備運動、主運動につながる運動をする				
			2 グループごとに高跳びを行い、動きのポイントを見付ける ・3歩から5歩助走での高跳びを行う。 ・動きのポイントを共有する。 ・動きを身に付けるための練習をする ・課題の解決のために考えたことを伝える。	2 高跳びで、競争をする ・自己やチームに適した規則を選んで競争をする。 ・動画を撮影することで、課題解決に生かせるようにする。 ・課題の解決の為に考えたことを伝える。			2 高跳び大会をする ・高跳びの自己の記録への挑戦をする。 ・競争の規則を選んで、チーム対抗で競争をする。
			3 高跳びで、競走をする ・高跳びの競走の規則を知る。	3 動きを身に付けるための練習をする ・グループごとに、課題に適した場や用具を選んで練習する。			3 単元を振り返り、学習のまとめをする
			4 本時を振り返り、次時への見通しをもつ	4 本時を振り返り、次時への見通しをもつ			
評価の重点	知・技	③	①				②
	思・判・表			①	②	③	
	主体的	⑥	③	②	④	⑤	①

8 本時の展開(5/6)

(1) 目標

- ・友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えることができるようにする。
- ・友達の考えを認めようとしてすることができる。

(2) 展開

学習活動	□個別最適な学びへの支援 ○評価(評価方法)
1. 集合・挨拶をする 2. 本時の目標を確認する 課題を見付け、課題に合った練習を選ぼう 3. 準備運動・主運動につながる運動を行う 4. 場や用具の準備をする 5. 高跳びで競争をする ・グループに適した規則を選んで、競争をする。 ・課題の解決のために考えたこと伝える 7. 動きを身に付けるための練習をする 8. 本時を振り返り、次時への見通しをもつ 9. 整理運動、場や用具の片付けをする	□個別最適な学びへの支援 ○評価(評価方法) □前時の振り返りから、課題を明確にし、練習方法を工夫している児童を取り上げ、課題を解決しようとする意欲を高める。 □励まし合ったり、助言し合ったりしているグループを賞賛し、広げていけるようにする。 □跳べなかった高さの動画を撮るように助言することで、各自の課題を見付けることに生かせるようにする。 □撮影した動画と「動きのポイント」を照らし合わせて、課題を見付けられるようにする。 □課題が見付けられない友達には、グループで一緒に考えるように促す。 □グループの友達の課題を共有することで、よい動きや変化の伝え合いに生かせるようにする。 ○友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。(観察) □課題に合わせて、用具や場を自由に選べるようにする。 □課題ごとのおすすめの練習方法を資料として用意し、自由に選べるようにすることができるようにする。 ○友達の考えを認めようとしている。(観察)